



四国八十八ヶ所霊場 お砂踏み

# 観音

平成18年 3月  
第40号

発行  
広島県安芸郡府中町  
茂陰2丁目2-8-4  
真言宗 正観寺  
小出 真行

結果だけが尊いのではない  
ほとけに成ろうとする努力が  
尊いのである。

秘蔵記より

### 「陰徳のこころ」

人には知られないようにひそかにする善行を「陰徳」といいますが、言うは易く行うは難し、ではないでしょうか。

「施しをする人は多いのですが、何らかのお返しを望まずして行える人はまことに少なく」人は自分の善行に対して、知らず知らずにかの代償を求めています。それに「私は善いことをした」と優越感をもつこともあります。

この想いに捕らわれないことは、なかなか難しいことですが、「ご縁をいただいた」と思う心を持ちたいものです。



## II 「即身成仏」を目指す真言行者における「三密行」の重要性

小出 英生

### 第一章 即身成仏思想と

#### 即身成仏思想の証拠づけ

##### 第一節 即身成仏思想と

##### 三劫成仏思想

仏教の永遠目的は仏に成る。つまり成仏する事であり、それは自己の宗教的な人格の完成である。即身成仏思想とは、現世に於いて宗教的な最高の自覚が得られたならば、直ちにこの肉体をもって自己の全存在をあげ、そのまま宗教的理想の境地に到達する。つまり凡夫のこの身が直ちに仏陀及至覚者になる事である。①「密教の宗教思想で、現在生きている間に、生きているこの身に即して成仏の境地に到達しようとする事、或いはそれが可能である事」とある。

密教に於ける即身成仏思想と対立するのが三劫成仏思想である。(隔生成仏、遠劫成仏とも云う。)三劫成仏思想とは、三大無数劫、つまり数え尽くす事の出来ない長い間修行に修行を積み、生まれ変わり死に変わりして成仏するのであって、生きている間に成仏するとは限らないのである。故に、即身成仏思想と三劫成仏思想との大きな違いはここに成仏の遅速であるといえる。

では空海が、何故即身成仏思想を真言密教の提唱としたのか検討してみる事にする。奈良時代の

宗教は、呪術的な仏教受容の基盤の上に呪術の権証となる密教の経軌ダラニが請来され、呪法の効果により確実に保証される様になっていた。空海以前の奈良仏教は、さとり智慧を得て目覚めた者、即ち仏となる為には、ほとんど無限に近い程の長い年月を掛けての修行を段階として、経なければならなかった。もしそうだとするならば、我身が生きている間に成仏する事が不可能になってくる。現に釈迦は浄飯大王の王子として生まれ十九才まで世人と同様に生活し、妻をもらい、羅候羅という子供までこしらえ、そして三十五才で菩提樹の下でさとりを開いて仏となったのである。釈迦はさとりを開く前に六カ年の長きにわたって苦行を続けたが、その結果、身体は痩せ衰え色は死灰の様になったが、最高の認識を得る事は出来なかったのである。ここに釈迦は苦行が真実の道ではなく、意味がないものである事を知ったのである。ここに於いて釈迦は自己の反省をし、遂に自己の心に於いて復活した自我の目覚めにより、再生したのである。別現して言うに釈迦は、「如実知自心」によって、初めて仏として菩提樹下に誕生したのである。その事を釈迦は

②「その行動、その実践、その難行によっても、私は人間の性質を超えた特別完全な聖なる智見に到達しなかった。それは何故だろう。この聖なる智慧が未だ達せられなかったからである。この聖なる智慧が達せられたならば、それは出離に導くものであり、それは行う人を正しく苦の消滅に導

いてゆく。」

と述べている。又、「大サツチャカ経」に於いて

③「極度に瘦せた身体では、かの安楽は得がたい。さあ私は実質的な食べ物である乳糜をとろう。」

と述べている様に釈迦は村の一少女の捧げる牛乳を飲み、川で身を清め、苦行を捨て、気力が回復してブツダガヤーの地に赴き、そこにある一本の菩提樹のもとに静座して遂にさとりを開いたのである。空海は釈迦がさとりを開いた事により、その端々な真理さえ掴めば仏になれるはずであると考へ、ここに選んだのが真言密教の教えである。

又、大乘教典に於いて現身成仏思想の事が説かれてある。「法華経」に於いては、龍女が一生の間に正覚を生じた事。「華嚴経」に於いては、都率王子が現身をもって成仏した事、「仁王経」に於いては、五千の龍女が現身成仏を遂げた事等である。この大乘教典に対していち早く空海は「三教指帰」の中に於いて

④「十地の長さ路須臾に経彈し、三祇の遙かなる劫、究め円かんぜんこと難きにあらず。」

とある。この義は、十地の菩薩が修行するに要する長期間をたちまちに通過し、修行に要する無限の長い期間を究め尽くして、悟りを完成させる事である。しかし、入唐以前にどれだけの成仏思想の考へがあつたかは明確ではない。

さらに三十一才で入唐し密教を学ぶに至って、即身成仏思想に深い関心を示す様になった。そもそも入唐の原因は、空海が従来の六宗(俱舍宗、



成実宗、法相宗、律宗、三論宗、華嚴宗)に満足出来ずにおいて、奈良朝一般の咒法仏教や儀礼仏教にも満足できず、それかといって日本古来の山岳修行を最上とする事も出来なかったのである。ここに自己の本質を究める仏教がなろうかという大きな要求があった。たまたま久米寺に於いて『大日経』『大日経疏』等の密教経疏に遭遇し、そこにわずかな光明を認めながらも容易に理解する事が出来なかったのである。当時、唐に於いて密教は盛んであった為、入唐し空海自身の疑問点を解決しようとしたのである。

当時唐に於いての密教経典の中心となる思想が即身成仏思想であったし、これを特に強調した密教弘通者の影響もあった事も知っておかなければならない。空海は『広付法伝』の中に於いて、在唐中直後、間接に接触した密教学者の思想を紹介している。その中で不空は『不空の表答』に於いて

⑤「其の訳する所の全剛頂瑜伽法門は是れ、成仏疾速の路なり、其の修行するものは必ず能く頓に凡境を超えて彼岸に達す。」

と説いており、これは自らの翻訳した金剛頂経系經典に説く思想は、成仏疾速の路である事を強調に、全剛頂瑜伽の法門の絶対唯一性を主張している。又惠果の弟子吳愷が編纂した『惠果阿闍梨行状』に於いて

⑥「常に門人謂て曰く。金剛界大悲胎藏兩部の大教は、諸仏の秘藏なる即身成仏の路なり。普く願くは法界に流傳して有情を度脱せんことを。」

と説いており、この文に於いて、惠果がいかに密教の根本思想である即身成仏思想を普及しようとしていたかがわかる。惠果が金剛界のみならず胎藏界を合した兩部を、即身成仏に至る法として取り上げている事を注意しなければならぬ。又空海の撰した『惠果阿闍梨の碑文』に於いては

⑦「常に門徒に造て曰く、人の貴き者は、国王に過ぎず、法の最たるものは密藏に如かず牛羊にむち打つて道に趣くときは久しくとし始めて到り、神通に駕して以つて跋渉するときは勞せずして至る。諸乗と密藏と豈に同日にして論ずることを得んや。仏法の心髓要妙斯に在り。」

と述べ、これによって惠果の根本的思想は即身成仏である事が明らかに成り、入唐して空海はこの思想に深い感銘を受けた。空海が今日までこれほどの功績を残したのも、惠果の影響が大であると云つても決して過言ではないと思う。

さて、空海は帰朝後、惠果から学びとつた即身成仏の根本思想を日本にも普及しようと努めた。この事は帰朝早々に撰した『御請来目録』に示してある。

⑧「夫れ顕教はすなわち三大の遠劫を談じ、密藏は則ち十六の大生を期す。遅速勝劣は猶ほ神通跋躡との如し。仰善の客庶くは其の趣を曉れ。法の濫觴は金剛薩埵五秘密儀軌及び大弁正三藏の表答の中に広く説けるが如し。」と云い更に

⑨「足を修すること多途にして遅あり速あり、一心の利刀を翫ぶは顕教なり。三密の金剛揮ふは密

藏なり。心を顕教に遊ばしむれば三僧祇眇焉なり。身を密藏に持すれば十六生甚だ促かなり、頓の中の頓は密藏にこれに当たれり。」

と顕教では三劫成仏を説くが、密教では菩薩の十六で即身成仏するといひ、又五相三密の妙行を修し、実践的立場に重点を置くのが密教の特色である。この即身成仏思想が空海の著述の考えにある根本となり、密教の根本的立場が、即身成仏思想とその実践である事を入唐して身をもって体験した事であるが、その内容は明確ではないとされている。

## 幸せとは

人は誰でも幸せを願って日夜あけくれています。「ああすれば幸せになれるか?」「こうすれば幸せになれるか?」と、さまざまに夢をえがいて、幸せを追っています。人間として地上に住む以上は、誰でも同じではないかと思われます。

都会に住みたいと思うものがあると同時に、田舎に住みたいと願うものもあります。全く正反対に見えますが、実際は同じものを求めているのです。淋しい単調で不便な、文化の潤いの乏しい田舎から、賑やかな、変化に富んだ、便利な、文化の進んだ都会に移って、その幸せに浴したいからです。同様にこれと反対の希望、都会から田舎へと望んでいるものも、田舎の幸せを受けたいからなのです。日光も十分に恵まれない住居、煤煙と騒音に





追いたてられる都会から、水も空気もきれいで、新鮮な野菜や生みたての卵も食べられ、人情のこまかな田舎の恩恵に浴したいのです。

早く死にたいと思う重病患者は、死んで苦痛から逃れたいと思うでしょうし、たとえ借金をしても、名医の治療をうけたいと願う患者もいます。それは生きて人生の幸せを少しでも味わいたいからなのです。このように全く正反対と見える願いでさえ、幸せを求めてということには変わりはありません。

毎日汗水流して働くのも、苦しいことを辛抱し頑張れるのも、ひとしく幸せになりたいからなのです。好きでない勉強に全力を傾ける学生も、将来の幸せを望むからに他ならないのです。考えてみますと、すべての人々の働きは、それがどんなことであろうとも、みんな幸せに関係のないものはないのでしょうか。

### まごころを添える



亡くなった人々や子供の冥福を祈ってお地藏様を奉納します。心から冥福を祈って行われるのならいいのですが、供養をしなければ災いがくることを怖れて、思いついた様に安置し、ひとたび安置すれば、すべて終わったと錯覚する人もいます。

お地藏様を安置するのは、今まで自分が行ってきたことへの免罪符ではないのです。この世に生

を受け縁を持ち、仮にも親子の縁を結ぼうとしていたのに、一方的に断ち捨てられたとしたら、縁を結ぼうとした子供の不満が残るのは当然でしょう。この気持ちを親にあの世から語りかけ、何らかのこころをかりて気付けようとしているのです。それをある人は、障りとか崇りとか罰があたったといいますが、自らのつとめるべき務めを怠っておいて、いかにも他から故なくして災難をうけたように受けること自体が問題ではないでしょうか。

その崇りをのがれるために供養するということは本末転倒です。縁あつた者に対してまことの心から冥福を祈るという追善の気持ちを常に持つことが大切なのです。

すべて他人まかせで、自分はただ金品を提供するだけはいけません。懺悔する気持ちとともに心から冥福を祈るといふ真心をそえたものであることが大事なのです。

煮物に替えますと、お坊さんに読経をお願いし供養してもらうことは、野菜などを煮てやわらかく食べやすいようにすることなのです。それは水煮なのです。それに塩や砂糖、醤油を加えて味つけし、美味しく食べられるようにしますが、その調味料にあたるのが供養する人の冥福を祈るまごころなのです。まごころがともなわれない供養は味わいのない食べ物のようなものです。から、美味しいご馳走となりますように心掛ける必要がありますね。

仏様はつねに、どうしたら仏の道に歩ませることが出来るか考え、「先度他」と、まず他人の幸せを願いなさいと教えられています。自分の不幸、災いを避けるためではなく、縁あつた者への冥福を祈ることが仏様の教えにかなったものなのです。

### ○平成十八年度 年間行事予定

- 一月一日〜三日 修正会
- 一月十八日 初観音
- 二月三日 星祭
- 三月十二日 観音大祭
- 四月九日〜十一日 小豆島巡拝
- 七月二日〜三日 石鎚山参拝
- 八月二十日 地藏祭
- 十二月三十一日 年越祭

### 参加者募集

- 一、平成十八年四月九日(日)
  - 〃十一日(火) 二泊三日
  - 『小豆島巡拝』 費用 三六、〇〇〇円
- 二、平成十八年七月二日(日)
  - 〃三日(月) 一泊二日
  - 『石鎚山参拝』 費用 三三、〇〇〇円

※お問い合わせ

〇八二―二八二―五六六二迄